

ご存知のように「アメリカ」はサプリメント大国です。

その経緯は複雑で、もともとは日本の様な国家の保証制度である「健康保険」が随分前に破綻したのがきっかけです。

アメリカ国民は、自分の健康保険は「民間」の保険会社と契約し、保険会社の決めた「保険料」や「支払い金額」で契約します。それによって、病気になると民間の保険会社が個人のかかった病院にあらかじめ取り決めておいた利率の保険料を支払います。

例えば、医療費の50%を個人で、残りを保険会社でまかなう。その保険料は年齢や既往歴等によって支払う保険料が変わってくる・・・という仕組みです。

日本のように社会保障がないので、その保険料は随分と高い金額になります。当然所得の低い国民はその保険料が支払えず、未加入となります。

しかし、いざ病気になったら...と考えると必然的に「予防医学」が発達し、今のアメリカの予防医学である「サプリメント外来」が始まる事となりました。

10数年前から、アメリカでは「分子矯正栄養学」という学問が確立され、今の日本で学んでいる「栄養学」よりさらに、細分化した栄養学...「分子レベルで栄養素を考える」...分子矯正栄養学が発達したのです。

その内容は、簡単に言うと全ての栄養素...「脂質、タンパク、糖質、ビタミン、ミネラル、生理活性物質などの8大栄養素」は、単体ではなんの効果も人体にもたらさず、それぞれが、互いに(相性があり)相互関与して初めて栄養素の働きが、充分発揮される...というものです。

この原理を1960年(今から46年も前から...ちなみに私の生まれた年)にアデルデービスと言う女医が発見し、その学問が発達し今の「分子矯正栄養学」となっています。

一般的には日本の栄養学はアメリカから20年遅れている...とされています。

それに付け加えて、「飽食のアメリカ」が時代背景にあります。

食生活が、大きく変わり、レトルトやインスタント、外食といった「栄養素の偏り」によって成人病が流行したのです。

それを、補う為に「サプリメント」の開発、研究が国家レベルで発展してきたのもその時代背景からなのです。今では、日本のように「ビタミンA、B、C」などの単体での服用のみならず、「胃潰瘍の為にサプリメント」今流行りのヨーグルトから抽出した「LG21のサプリメント」お酒の飲みすぎに日本では...TVで「ウ～コンのちから～」と歌っている「ウコンのサプリメント」...アトピーや精神的な疲れで副腎皮質(腎臓の上にある臓器)からのホルモン(一般的にステロイドホルモンと言っています)の分泌異常を改善する「副腎皮質専用のサプリメント」...風邪やすぐに病気になる免疫力低下の為に「7つの項目箇所の免疫力を向上させる為のサプリメント」などいくつもあります。

10年前は、サプリメント専門医のもとを訪れて「診察」してもらい「サプリメント各種」を処方してもらっていた頃と比べると遥かに楽チンになりました。

でも、驚く事に、アメリカでは私たちの考えている一般的な化学薬品(抗生物質を含み)を使って病気を治す病院...日本にはほとんどこの種の病院だけです...に罹る患者は全患者の40%程度で、残りの60%の病人(患者)は、サプリメントを専門で処方してくれる「サプリメント専門医」に受診しているのです。

しかし、今の日本の保険制度や財政を考えると...遅かれ早かれ、何年後かにはアメリカの様な状態になりそうですが...

